

平成28年度 事業成果報告書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

1.地雷処理支援事業全般成果実績

カンボジア政府機関のCMAC(カンボジア地雷対策センター)と共同して事業を実施し、村人参加型の地雷探知チーム5名により、バットアンバン州のカムリエン郡、サンパルルーン郡、プノンプラ郡及びパイリン州内の8村8箇所の地雷原を探知し、約31ヘクタール(累計約150ヘクタール)の農地を安全にするとともに、活動地域の村人からの情報による回収活動、危険回避の啓蒙活動を行った。

詳細は、以下である。()数字は2011年8月からの累計

- (1) 処理した地雷数 : 対人地雷90個(338個) 対戦車地雷32個(134個)
- (2) 処理した不発弾 : 130個(659個)
- (3) 処理した面積 : 311,690平方メートル(1,509,749平方メートル)

2.地域復興支援事業等全般成果実績

IMCCD日本語学校約40名、車椅子60台(160台)、日本企業の支援5社、芋焼酎地場産業の発展指導、邦人訪問見学者81名(累計572名)の受入れ、その他文房具の寄贈など、支援者との仲介活動により、地域の復興支援を実施した。

詳細は、以下の9事業である。

(1) 相互の友好交流を促進する事業

愛媛経済同友会の国際交流委員会が主催されたカンボジア海外視察研修の16名の皆様、更に愛媛県外国人技能研修生受入れ協議会主催のカンボジア視察研修の14名の皆様、また開発途上国におけるスポーツ機会の提供支援を目的に公益財団法人日本バレーボール協会及びスポーツフォートモロー様の企画で元女子オリンピック選手3名などがタサエン地区を訪問し、村の子供たちにバレーボールを教え交流された。

(2) インフラ整備を支援する事業

ア 道路整備

今期該当なし。

イ 井戸掘削

建設中の井戸1基(No. 33)他、今期該当なし。

(3) 農業の発展を支援する事業

今期該当なし。

(4) 地場産業の発展を支援する事業

地雷除去後の畑には、キャッサバ芋などが植えられる。芋は安値で隣国タイに売られていたので、何とか村人の収入を上げようと、この芋に付加価値を付けることを模索、芋焼酎の開発を2008年から始めた。松山市の酒造メーカーのアドバイスを受け、試行錯誤で開発したところ、大変美味しいと評される商品が出来た。バットアンバン州知

事によって「ソラークマエ」と命名され、現在カンボジアのプノンペン空港やシエムリアップ空港、その他国内で販売されている。また、愛媛の今治市にある㈱今治デパート様が輸入し、5月下旬から販売を開始した。更に、サトウキビでラム酒の製造にも着手し、現在アメリカでの販売を調整中である。これらの活動は、現地法人 KHMER JYORYU Co.,LTD (クマエ蒸留株式会社) によって地場産業の発展を促進している。

(5) 日系企業の誘致を支援する事業

2008年に1社、2011年に2社、2014年に1社、計4社四国中央市の紙加工会社を活動地の村に誘致している。更にカンボジアで活動している松山市、伊予市、今治市の会社の支援を行っている。今後も、企業活動と村の発展に直接貢献できる活動を模索しながら実施していくことになる。

(6) 教育環境の発展を支援する事業

建設中の小学校1校(11校目)、調整中の小学校1校(12校目)の他、今期は学校建設該当なし。

(7) 人材の育成を支援する事業

ア 留学生の支援

青森県八戸市の高校にタサエンコミュニケーション出身のタン・チエンターを2010年3月から留学、2013年3月卒業し、同年4月から松山東雲女子大学に進学させていたが2017年3月無事卒業した。4月から愛媛県今治市にある㈱ありがとうサービスに就職内定している。2013年11月タサエンコミュニケーション出身のスロ・リスラエンを松山に招致し、2014年4月から松山の聖カタリナ女子高等学校に留学させ、2017年3月無事卒業した。4月から松山東雲女子大学に進学内定している。また、八戸市の高校にタサエンの女子高校生シリウを1名短期留学として受け入れていただき、日本での生活や勉学を体験した(3人目)。

イ 建設技術の習得支援

松山市の㈱愛亀をカンボジア人3名が見学予定の他、今期は該当なし。

ウ IMCCD日本語学校

村の子供たちに日本語とパソコンを教え、将来、日本企業への就職や、通訳、日本語で職業に就けるように支援している。生徒のうちこれまでに、日本への留学2名、プノンペン大学の日本語学科へ7名、プノンペンの日本語学校へ7名入れている。更に、八戸市の高校に短期留学生としてこれまで3名を受け入れていただいた。

日本語学校の現在の生徒数は、日本語教室が約40名、パソコン教室が約10名である。2014年5月には、カンボジア政府から「日本語学校」として認定された。

エ 技能研修生

日本語学校で日本語を勉強していた村のラックサー(19才)、キムリーン(21才)、スレイオン(21才)、ラキナー(18才)の女性4名を技能研修制度を活用して日本に3年間行かせることを調整中である。

(8) 講演、写真パネル展などを通じ平和構築を啓発する事業

ア 日本での講演活動

小学校、中学校、高校、ロータリークラブ、ライオンズクラブなどでの講演を38回、少人数での交流会を8回、計46回実施した。(累計328回)

最近では、テレビ、新聞などの報道が全国的になり、講演なども全国的な活動になってきた。

イ 写真パネル展示

イベントの開催、会社、学校、講演会などでの掲示を実施し広報した。

ウ 日本人のタサエン地区など訪問見学

81名(延べ572名)の邦人が活動地タサエン地区を訪問し、地雷処理活動や村の様子を見学した。特に大学生のスタディーツアーが60%を占め、地雷処理という戦後処理を行いながら平和を回復した村人との触れ合いの中から「心の豊かさとは」、「人の幸せとは」何かについて認識を深めていた。また、松山市内の高校3年生が、また伊予郡砥部町の高校卒業生が一人でタサエンを訪問しそれぞれ1週間現地研修をした。

(9) 広報に関する事業

ア 新リーフレット2000部、機関紙「カンボジア便り」を11月と5月に作成、配布し広く支援者などに活動を報告している。

更に、日本国内における広報活動は、一時帰国の約1ヵ月間を活用し、帰国月平均テレビ2~3回、ラジオ1回、新聞3~4回、講演9回、交流会などを実施した。特に、テレビ朝日の「報道ステーション」や、愛媛のNHK、南海放送TV、テレビ愛、あいテレビ、愛媛朝日テレビなどでIMCCDの活動の一端が放送された。

また、愛媛県内に八幡浜分会、新居浜分会に続き、今治分会、四国中央分会を設置した。更に、全国都道府県に群馬支部、広島支部、東京支部、兵庫支部に続き、愛知支部を設置し活動中である。海外では、カンボジアのバタンバン支部、シエムリアップ支部、タイにバンコク支部、香港に香港支部を設置した。

また、東京の青年がタサエンを訪問し、ドキュメンタリー映画「地雷ときどき僕」を発表。全国で映画会を催しており、この6月からは映画配信会社はその放映権を取得し逐次全国の映画館で放映される予定である。

また、クラウドファンディング(株)レディーフォーのネット広報により、全国で440名の方が参加ご協力頂き、支援金6,073,000円のご支援を頂いた。

イ 表彰等

一般社団法人倫理研究所が主催した「第20回地球倫理推進賞」に選ばれ、受賞した。併せて文部科学大臣賞も受賞した。また、松山市長からも顕著な活動が認められ受賞した。更には、READY FOR OF THE YEAR 2016 シルバー部門賞を受賞した。

著書 『地雷処理という仕事』—筑摩書房—

『平和の種になりたい』—IMCCD—

以上